

2026年度以降の進め方(案)

- (1) プログラム統合・部会再編について
- (2) 取組推進ガイドライン概要について



(1)プログラム統合・部会再編について

1. 2030年までに実現を目指す中期目標

2022年
3月

関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本計画 改定

※今期の検討範囲

2030年

中期目標

I. コウノトリの個体群形成と個体群間の交流

コウノトリの関東地域個体群の形成が進むとともに、コウノトリをシンボルとする国内各流域のエコネット事業地間から東アジアに至る個体群間の交流がはじまっている。

II. 流域が一体となった湿地環境等の創出

コウノトリやトキの関東地域個体群が自活して繁殖・生息が可能となる湿地環境等の改善や創出が、堤外・堤内における関連主体の役割分担に応じ流域一体で進められており、河川と水田がつながることで淡水魚があふれている。

III. 様々な主体の賑わいによる魅力ある人・地域づくり

コウノトリ・トキと共にくらせる地域を誇りとし、地域経済及び社会を構成する様々な主体の賑わいによる、持続可能で魅力ある地域づくりが進められている。

IV. 個性豊かなエコロジカル・ネットワークの形成

グリーンインフラの概念による流域治水の取組みが主流化し、コウノトリ・トキのほかにも関東各エリアの地域特性に基づく指標種を加味した、個性豊かなエコロジカル・ネットワークの形成が促進されている。

2050年

到達目標

コウノトリやトキが絶滅の危機から脱し普通種になっている。

河川や農地等の水辺環境は改善とネットワーク化が進み、流域治水との調和の中で、多様で地域性に富んだ生物が豊かな魅力ある空間が形成されている。

自然環境が有する多様な機能を最大限に活用し、持続可能で安全・安心な国土・都市・地域づくりを進めていくグリーンインフラやEco-DRR（生態系を活用した防災・減災）、NbS（自然を活用した解決策）などの新たな概念も幅広く取り入れられ、遊水機能を担う湿地や水田が、地域防災と生物多様性に貢献するグリーンインフラの「重要エリア」として評価されている。

わたしたち人間の健康は動物や環境を含めた生態系の健全性と不可分であり、互いに強く影響し合うひとつの存在「ワンヘルス」であり、一体的なものと考えることが常識化している。

関東広域で流域治水と生態系ネットワーク形成が一体となった取組みが深く融合し、自然空間を活かした賑わいと個性ある地域づくりの実現によって、環境と経済と社会が調和した持続可能な関東エリアが達成されている。

1. 2030年までに実現を目指す中期目標

「関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本計画」では、4つの中期目標を掲げ、その実現のための各プログラム(各部門共通:2項目、部門ごと:全41項目)が設定されている。

中期目標

I.コウノトリの個体群形成と個体群間の交流	II.流域が一体となった湿地環境等の創出	III.様々な主体の賑わいによる魅力ある人・地域づくり	IV.個性豊かなエコロジカル・ネットワークの形成
			
<p>コウノトリの関東地域個体群の形成が進むとともに、コウノトリをシンボルとする国内各流域のエコネット事業地間から東アジアに至る個体群間の交流がはじまっている。</p>	<p>コウノトリやトキの関東地域個体群が自活して繁殖・生息が可能となる湿地環境等の改善や創出が、堤外・堤内における関連主体の役割分担に応じ流域一体で進められており、河川と水田がつながることで淡水魚があふれている。</p>	<p>コウノトリ・トキと共にくらせる地域を誇りとし、地域経済及び社会を構成する様々な主体の賑わいによる、持続可能で魅力ある地域づくりが進められている。</p>	<p>グリーンインフラの概念による流域治水の取組みが主流化し、コウノトリ・トキのほかにも関東各エリアの地域特性に基づく指標種を加味した、個性豊かなエコロジカル・ネットワークの形成が促進されている。</p>

実現

※中期目標を実現するための各プログラムを設定

プログラム

「コウノトリ飼育・放鳥条件整備」
(A部会:たね地づくり)の
各プログラム

「コウノトリ生息環境整備・推進」
(B部会:定着地づくり)の
各プログラム

「コウノトリ地域振興・経済活性化」
(C部会:人・地域づくり)の
各プログラム

「取組みの推進に係る枠組みづくりと運用(共通事項)」の各プログラム

※プログラム:「中期目標」や「到達目標」の実現に向けて、取り組む必要があると考えられる項目

2. 2025年度の検討内容



3. 取組進捗指標

4つの中期目標に対し、今年度(2025年度)に再検討した取組進捗指標は下記のとおりである。

中期目標	取組進捗指標
I. コウノトリの個体群形成と個体群間の交流 	① コウノトリの飛来や「コウノトリ溜まり」形成の状況
	② コウノトリの繁殖状況
	③ 関東地域外からのコウノトリ飛来・繁殖状況
	④ 関東由来コウノトリの関東地域外での飛来・繁殖状況
	⑤ コウノトリの生息域外保全・生息域内保全に係る取組の実施状況
	⑥ コウノトリ・トキに係る関係機関間の情報共有の実施状況
	⑦ コウノトリ・トキや関東エコ・ネットに関する一般市民への情報発信・浸透状況
II. 流域が一体となった湿地環境等の改善・創出 	⑧ 生息環境に関する情報共有、調査、評価、取組適地選定の実施状況
	⑨ 河川域における生息環境創出・改善の実施状況
	⑩ 農地における生息環境創出・改善の実施状況
	⑪ 水域連続性確保の実施状況
	⑫ 生息環境創出・改善のための維持管理の実施状況
	⑬ 樹林地・草地の育成・保全・管理の実施状況
III. 様々な主体の賑わいによる魅力的な人・地域づくり 	⑭ 地域学習プログラムの実施状況
	⑮ 多様な主体が参加した取組の実施状況
	⑯ 魅力的な地域づくりのための情報発信の実施状況
	⑰ 野生生物や関連する風土を対象としたエコツーリズムの取組状況
	⑱ エコネット関連商品、及び地域還元方策の取組状況
	⑲ エコネットを推進する人材育成の実施状況
IV. 個性豊かなエコロジカル・ネットワークの形成 	⑳ エリア協議会数、連携主体数、関東エコ・ネットの対象範囲の拡充状況
	㉑ 指標種を掲げた取組の計画作成・実行状況
	㉒ 農地の生物多様性保全機能に着目した取組の実施状況
	㉓ OECM登録等実施状況
	㉔ サステナビリティ企業活動の実施状況

4. 2026年度以降のプログラム(再編案)について

- 2025年度の間評価以降(2026年度以降)は、P4に示した「取組進捗指標」をもとにプログラムを統合・再編することを考えている。これにより、2030年度の中期目標年においては、2025年度と同じ取組進捗指標でプログラム進捗を確認することが可能となる。

■プログラム(各部会 共通)

2026年度以降のプログラム(再編案)	取組進捗指標	現行プログラム
(独立したプログラムとはしない)	※中期目標のIV.の取組進捗として把握・評価を行う。 ②エリア協議会数、連携主体数、関東エコ・ネットの対象範囲の拡充状況 ②指標種を掲げた取組の計画作成・実行状況	共通1 コウノトリ・トキ等を指標とした生態系ネットワーク形成に係る関連計画、アクションプラン等の作成・改定・連携 共通2 関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会、専門部会、各エリア協議会等の設置・開催による継続的な取組みの推進

■プログラム(コウノトリ飼育・放鳥条件整備(A部会:たね地づくり))

2026年度以降のプログラム(再編案)	取組進捗指標	現行プログラム	
1. トキと共生する里地づくりに係る連携・情報共有	⑥ コウノトリ・トキに係る関係機関間の情報共有の実施状況	A2	トキの野生復帰に向けた情報の収集・共有・支援
2. コウノトリの飼育・繁殖・保全に係る取組・連携・支援	① コウノトリの飛来や「コウノトリ溜まり」形成の状況 ② コウノトリの繁殖状況 ③ 関東地域外からのコウノトリ飛来・繁殖状況 ④ 関東由来コウノトリの関東地域外での飛来・繁殖状況 ⑤ コウノトリの生息域外保全・生息域内保全に係る取組の実施状況 ⑥ コウノトリ・トキに係る関係機関間の情報共有の実施状況	A1	飼育および放鳥コウノトリに係る情報の共有等、関東関係機関等連携の推進
		A3	JAZA、IPPM-OWS等の専門機関、全国のエコネット関連事業地との情報共有・連携の推進
		A4	生息域外保全(飼育・増殖事業)の推進・支援
		A5	適正な放鳥・繁殖(放鳥拠点・近親婚対応等)の促進・支援
		A6	関東広域の救護・事故防止対策への効果的な取組みの推進【重点プログラム】
		A7	関東広域等における見守り体制ネットワークの検討・連携
		B15	なわばりや地形条件、周辺環境との調和等に留意したコウノトリ人工巣塔適正配置の検討・支援
3. コウノトリ・トキ等の指標種や関東エコ・ネットに関する周知PR	⑦ コウノトリ・トキや関東エコ・ネットに関する一般市民への情報発信・浸透状況	A8	関東地域のコウノトリ・トキの野生復帰とエコネットに関する認識・理解の促進【重点プログラム】

■プログラム(コウノトリ生息環境整備・推進(B部会:定着地づくり))

<p><コウノトリ生息環境整備・推進(定着地づくり)> 2026年度以降の プログラム(再編案)</p>	<p>取組進捗指標</p>	<p>現行プログラム ※B13・B14は2箇所に掲載</p>	
<p>(「関東地域個体群」はすでに形成されつつあることから「達成」として終了)</p>	<p>※中期目標Ⅰ、およびA3-6にて関東地域個体群形成状況の評価や関連取組の実施状況の把握を行う。</p>	<p>B3</p>	<p>コウノトリの確認地点情報や生態的特性、生息環境整備の現状・計画等の分析評価に基づく「関東地域個体群形成戦略」の検討</p>
<p>1. 生息環境に関する調査、評価、取組適地選定</p>	<p>⑧ 生息環境に関する情報共有、調査、評価、取組適地選定の実施状況</p>	<p>B1</p>	<p>コウノトリ餌生物量調査マニュアル等による調査実施と調査手法の更新・普及、コウノトリ・トキの生息環境ポテンシャル評価の検討</p>
		<p>B2</p>	<p>河川整備計画や流域治水プロジェクトに基づく生息環境整備の適地選定と事業推進手法の検討・実施</p>
		<p>B4</p>	<p>国・自治体等による指標種の生息環境整備に関する計画や活動の整理と取組成果の検証・評価の推進</p>
		<p>B5</p>	<p>多自然川づくりや自然再生事業、治水工事に伴う湿地整備等のコウノトリやトキ等の生息に資する既存河川事業地の分析・整理の実施</p>
		<p>B9</p>	<p>有機農法や冬期湛水、水田魚道等のコウノトリやトキ等の生息に資する既存農地の分析・整理の実施</p>
<p>2. 河川域における生息環境創出・改善</p>	<p>⑨ 河川域における生息環境創出・改善の実施状況 ③ OECM登録等実施状況</p>	<p>B6</p>	<p>河道掘削や調節池整備等の治水事業と指標種の生息環境整備との一体的推進方策の検討・実施</p>
		<p>B13</p>	<p>エコネットと流域治水の一体的推進による「コウノトリ関東地域個体群」形成への進展【重点プログラム】</p>
		<p>B14</p>	<p>地域特性と各プログラムの統合化による生息環境整備の計画作成・実施【重点プログラム】</p>
<p>3. 農地における生息環境創出・改善</p>	<p>⑩-1 農地における生息環境創出・改善の実施状況 ②農地の生物多様性保全機能に着目した取組の実施状況 ③ OECM登録等実施状況</p>	<p>B11</p>	<p>田んぼダム、ため池水位管理等の流域治水プロジェクトにおけるコウノトリ・トキ等の生息に資する生産基盤整備の検討・実施</p>
		<p>B13</p>	<p>エコネットと流域治水の一体的推進による「コウノトリ関東地域個体群」形成への進展【重点プログラム】</p>
		<p>B14</p>	<p>地域特性と各プログラムの統合化による生息環境整備の計画作成・実施【重点プログラム】</p>
	<p>⑩-2 生物多様性に富んだ農法の実施状況</p>	<p>B10</p>	<p>指標種をはじめとする生物多様性に富んだ安全・安心な農法・農業の推進</p>
<p>4. 水域連続性確保</p>	<p>⑪ 水域連続性確保の実施状況</p>	<p>B8</p>	<p>上～下流や水域・湿地間等の魚道整備・改善、水位調節等による河川の水系連続性の確保</p>
		<p>B12</p>	<p>河川～用水路や水域・湿地間等の魚道整備・改善、水位調節等による農地の水系連続性の確保</p>
<p>5. 生息環境創出・改善のための維持管理</p>	<p>⑫ 生息環境創出・改善のための維持管理の実施状況</p>	<p>B7</p>	<p>連携・協働による生息環境整備(保全、再生、創出、管理)推進のための体制拡充</p>
<p>(再掲)コウノトリの飼育・繁殖・保全に係る取組・連携・支援</p>	<p>⑤ コウノトリの生息域外保全・生息域内保全に係る取組の実施状況</p>	<p>B15</p>	<p>なわばりや地形条件、周辺環境との調和等に留意したコウノトリ人工巣塔適正配置の検討・支援</p>
<p>6. 樹林地・草地の育成・保全・管理</p>	<p>⑬ 樹林地・草地の育成・保全・管理の実施状況 ③ OECM登録等実施状況</p>	<p>B16</p>	<p>コウノトリやトキの営巣適木や営巣樹林の育成・保全・管理の検討・支援</p>

■プログラム(コウノトリ地域振興・経済活性化(C部会:人・地域づくり))

<p><コウノトリ地域振興・経済活性化 (人・地域づくり)> 2026年度以降の プログラム(再編案)</p>	<p>取組進捗指標</p>	<p>現行プログラム</p>	
<p>(各専門部会の取組みを通じて実施)</p>	<p>※各専門部会の取組みを通じて効果が得られると考えられることから、個別プログラムとして取組進捗の把握はしない。</p>	<p>C3</p>	<p>エコネットの形成がもたらす多面的効果(生物多様性、防災・減災、癒し効果等)の検証・整理</p>
<p>(すべてのプログラムに推進方策として組み込む)</p>	<p>※計画を推進する上で必然的な取組みであるため、<u>個別プログラム</u>として取組進捗の把握はしない。</p>	<p>C1</p>	<p>各エリア等の地域振興・経済活性化に効果的な情報収集・整理・共有</p>
<p>(再掲)コウノトリ・トキ等の指標種や関東エコ・ネットに関する周知PR ※P6のプログラム3と統合</p>	<p>⑩-1 情報発信を行っている拠点施設の概要 ⑩-2 拠点施設への来場者数の経年推移 ⑩-3 エコネット、コウノトリ・トキ関連情報の発信に活用している媒体(HP他)とフォロワー数 ⑩-4 情報発信ツールに係るアクセス解析結果 ⑩-5 観察マナー・ルールの普及啓発の取組みの実施状況 ⑩-6 コウノトリ・トキ等シンボル種やエコネット等に係る意識・認知度</p>	<p>C4</p>	<p>エコネット事業への多様な参画主体の意識動向の把握</p>
		<p>C7</p>	<p>エコネットの効果的な推進に向けた関連情報の収集・蓄積・発信</p>
		<p>C9</p>	<p>コウノトリ・トキ等の情報発信や観察拠点の開設・運営と集客アクセスの改善</p>
		<p>C14</p>	<p>条例制定等による観察マナー・ルールの普及啓発と見守り隊の結成・活動促進 ※観察マナー・ルールの普及啓発部分</p>
<p>1. エコネットを題材とした地域学習の普及</p>	<p>⑭ 地域学習プログラムの実施状況</p>	<p>C5</p>	<p>コウノトリやトキ等とくらす地域学習プログラムの実施【重点プログラム】</p>
<p>2. 野生生物や関連する風土を対象としたエコツーリズムの普及</p>	<p>⑰ 野生生物や関連する風土を対象としたエコツーリズムの取組状況</p>	<p>C10</p>	<p>コウノトリ・トキ等をシンボルとした野生動物観光の検討・実施・支援</p>
<p>3. 環境価値を重視したブランド農産物・商品の普及</p>	<p>⑱-1 エコネット関連商品の開発・生産・販売の実施または実施支援の状況 ⑱-2 エコ認証制度等の実施状況 ⑱-3 商品数、販売箇所数、売上高 ⑱-4 地域還元方策の実施状況</p>	<p>C2</p>	<p>エコネットの事業展開に基づく経済波及効果の試算と検証</p>
		<p>C11</p>	<p>環境価値を重視したブランド農産物・商品の開発・生産・販売促進と地域還元方策の検討・実施【重点プログラム】</p>
<p>4. 活動の継続・安定化・強化を目的とした人材育成</p>	<p>⑲ エコネットを推進する人材育成の実施状況</p>	<p>C13</p>	<p>エコネットを推進する人材育成(環境教育、地域づくり等)の支援</p>
		<p>C14</p>	<p>条例制定等による観察マナー・ルールの普及啓発と見守り隊の結成・活動促進 ※見守り隊の結成・活動促進等人材育成部分</p>
<p>5. 活動の継続・安定化・強化を目的とした支援</p>	<p>⑮-1 高齢者・障がい者・企業等の参加に留意した活動の実施状況 ⑮-2 活動資金の確保に係る取組の実施状況 ⑮-3 インセンティブ付与による環境保全活動促進・支援策の実施状況 ⑮-4 企業による官学民との連携・協働・支援等活動の実施状況 ⑮-5 エコネットの取組を推進する組織・団体の結成または支援 ⑳ サステナビリティ企業活動の実施状況</p>	<p>C6</p>	<p>様々な立場の人(高齢者・障がい者等)の参加を可能とする体験の場や機会の検討</p>
		<p>C8</p>	<p>多様な主体が参加可能となる活動メニューの検討・実施・支援</p>
		<p>C12</p>	<p>各主体の役割に応じた取組みを安定的に支える活動資金の確保</p>
		<p>C15</p>	<p>多様な主体の参加継続のための支援策(表彰・助成等)の検討・実施</p>

2026年度以降のプログラム(再編案)

- 基本計画における43プログラムを14プログラムに再編することを考える。

コウノトリの飼育・放鳥条件整備(A部会:たね地づくり)	
1	トキと共生する里地づくりに係る連携・情報共有
2	コウノトリの飼育・繁殖・保全に係る取組・連携・支援
3	コウノトリ・トキ等の指標種や関東エコ・ネットに関する周知PR

コウノトリの生息環境整備・推進(B部会:生息環境づくり)	
1	生息環境に関する調査、評価、取組適地選定
2	河川域における生息環境創出・改善
3	農地における生息環境創出・改善
4	水域連続性確保
5	生息環境創出・改善のための維持管理
6	樹林地・草地の育成・保全・管理
ー	(再掲A2) コウノトリの飼育・繁殖・保全に係る取組・連携・支援

コウノトリ地域振興・経済活性化(C部会:人・地域づくり)	
1	エコネットを題材とした地域学習の普及
2	野生生物や関連する風土を対象としたエコツーリズムの普及
3	環境価値を重視したブランド農産物・商品の普及
4	活動の継続・安定化・強化を目的とした人材育成
5	活動の継続・安定化・強化を目的とした支援
ー	(再掲A3) コウノトリ・トキ等の指標種や関東エコ・ネットに関する周知PR

プログラムを推進する上で留意事項(案)

- 前頁に示す全てのプログラムの推進にあたり、以下に留意することが重要と考える。

No.	留意事項	内容
1	取組の目的・目標の明確化・共有	計画やアクションプランの策定などによる、取組を進める目的・目標の明確化と関係主体間における共有・確認を進めるとともに、関東エコ・ネット全体の取組の進捗確認を行う
2	関係機関間における情報共有	取組や検討を進める上で必要な情報の収集・整理と、関係機関間における情報共有を拡充する
3	産官学民の交流・連携・協働	部会メンバーやエリア関係者にとどまることなく産官学民の交流・連携・協働を進め、プログラムのより効果的な推進をはかる
4	広域連携ネットワークの推進	関東エコ・ネット、流域エリア協議会、関東自治体フォーラムの構成主体間における連携・協働を進めるとともに、対象エリアの拡充について検討を進める

5. 推進体制(案)について

- これまでの3つの専門部会の委員を、継続の意向を確認の上、2つの専門部会に振り分けることを考えている。
- 2つの専門部会において、民間オブザーバー、行政オブザーバーは、テーマ等に応じて双方参加することができ、意見や提案など発言ができることを考えている。

Plan

関東エコ・ネット推進協議会

- 関東広域における生態系ネットワークの形成や流域治水を踏まえたグリーンインフラ整備のほか、地域振興等の目標となる計画を策定。

専門部会

- 統合したプログラムを踏まえて「自然系」と「社会系」の主に2つの専門部会に再編する。
- 基本計画に記載されたプログラムの推進に向けて、技術的・専門的情報を収集し検討・試行、各エリア協議会や地域で活動する団体等で活用可能となる全国の先行事例収集・共有など支援を行う。
- 民間オブザーバー、行政オブザーバーは、2つの専門部会にテーマ等に応じて参加することができ、意見や提案など発言ができるものとする。

Link

関東エコLink

- 横断的に情報・意見交換を行う場として定期開催
- 関東地整、関係河川事務所、関係自治体、関東農政、関東環境事務所等の実務担当者
- 年1回定例(4~5月頃)
昨年度の振り返り、当年度の実施内容確認、臨時開催の予定・希望
- 臨時開催(課題・テーマ毎)

関東エコ・ネット推進協議会

- 関東エコ・ネットの取組について情報収集・発信等。

関東エコ・ネット推進協議会の各主体 (国、県、市町、教育・福祉関係、企業等、機関・団体)

- プログラムの取組を実施。

関係機関・各エリア協議会

- 「エリア協議会アクションプラン」等を策定し、独自のプログラムに基づく活動を実施。
- エリアごとの地域性・独自性を踏まえて、「関東エコ・ネット推進協議会」で設定した目標達成に向け、一体的・相互補完的に推進。
- 「関東エコ・ネット基本計画」と「エリア別アクションプラン」等の整合を図る必要がある場合は、情報交換のうえ、改定等を行う。

関係機関・外部組織(例 関東自治体フォーラム等)

- 関東エコ・ネットの目標達成にむけて、関東エコ・ネット協議会と連携・協働(共催等)し、加盟する組織等を対象に情報共有(救護や事故防止など)や普及啓発・交流等を実施。

再編後の専門部会の位置づけ(案)

関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会(2013年～)

(学識経験者、民間団体、行政機関(4県・6市・国交省・農水省・環境省))

自然系の専門部会
有識者・企業・行政機関(5県・6市・国・農・環)

社会系の専門部会
有識者・企業・行政機関(4県・6市・国・農・環)

※4県:茨城県・栃木県・埼玉県・千葉県
※5県:4県+群馬県

関東エコLink ※行政機関実務担当者(テーマによって委員の助言・相談の場として活用)

渡良瀬遊水地エリア
(利根川上流河川事務所)

渡良瀬遊水地エリア
エコロジカル・ネット
ワーク推進協議会
(2015年～)

有識者
行政機関(4県・10市町)

渡良瀬遊水地エリア
検討部会

有識者、関係団体
行政機関(4県・10市町・
国・農・環)

利根川下流エリア
(利根川下流河川事務所)

利根川下流域
エコネット・地域づくり
推進協議会
(2025年～)

行政機関(2県・4市町・
国)

荒川流域エリア
(荒川上流河川事務所)

荒川流域エコネット
地域づくり推進協議会
(2017年～)

学識経験者・行政機関(1
県・5市町・国)

荒川流域エリア
・ワーキング

学識経験者、市民団体、
行政機関(1県・5市町・国)、
オブザーバー(関東地方整
備局)

利根運河周辺エリア
(江戸川河川事務所)

自然と人を育む地域づ
くり推進協議会
(利根運河・江戸川・利根
川地域)
(2024年～)

学識経験者・民間団体
行政機関(1県・3市・国・農・
環)、オブザーバー(7市町)

「コウノトリの舞う地域づくり連絡
協議会」(2014～2023年)の後
継機関

再編後に各部会で検討等を進めるプログラム(案)

No.	自然系の専門部会	A部会	B部会	C部会
1	トキと共生する里地づくりに係る連携・情報共有	●	—	—
2	コウノトリの飼育・繁殖・保全に係る取組・連携・支援	●	—	—
3	生息環境に関する調査、評価、取組適地選定	—	●	—
4	河川域における生息環境創出・改善	—	●	—
5	農地における生息環境創出・改善	—	●	—
6	水域連続性確保	—	●	—
7	生息環境創出・改善のための維持管理	—	●	—
8	樹林地・草地の育成・保全・管理	—	●	—

No.	社会系の専門部会	A部会	B部会	C部会
1	コウノトリ・トキ等の指標種や関東エコ・ネットに関する周知PR	●	—	—
2	エコネットを題材とした地域学習の普及	—	—	●
3	野生生物や関連する風土を対象としたエコツーリズムの普及	—	—	●
4	環境価値を重視したブランド農産物・商品の普及	—	—	●
5	活動の継続・安定化・強化を目的とした人材育成	—	—	●
6	活動の継続・安定化・強化を目的とした支援	—	—	●

自然系の専門部会の2026年度の取組内容(案)

2026年度以降のプログラム	2026年度の実施内容(案)	2025年度までの重点プログラムとの対応	中間評価における取組方針(案)との対応
1. トキと共生する里地づくりに係る連携・情報共有	<ul style="list-style-type: none"> トキと共生する里地づくりやトキの野生復帰に係る取組情報の収集・共有、コウノトリに係る実績・成果のトキへの応用に向けた検討 	-	I-(4)
2. コウノトリの飼育・繁殖・保全に係る取組・連携・支援	<ul style="list-style-type: none"> エリア協議会・関東自治体フォーラム・県等を通じた関東版資料集の共有の推進、資料集を活用した講習会等の開催検討 コウノトリの地域個体群形成に向けたIPPM-OWS、関東自治体フォーラムとの連携強化(課題等を含む情報共有等) 	A⑥	I-(1)
	<ul style="list-style-type: none"> コウノトリ個体数増加に伴う新たな課題の整理と支援策の検討 	A⑥	I-(2)
3. 生息環境に関する調査、評価、取組適地選定 4. 河川域における生息環境創出・改善 5. 農地における生息環境創出・改善 6. 水域連続性確保 7. 生息環境創出・改善のための維持管理 8. 樹林地・草地の育成・保全・管理	<ul style="list-style-type: none"> 水田域の取組や連続性確保の取組、トキの生息環境整備の推進等に向けて、調査・情報収集を適宜実施 利根川・稲戸井調節池周辺を対象として、①河道内の樹木伐採と合わせた環境創出と②稲戸井調節池等における湿地創出の工夫とこれを活かした地域づくりのあり方について、広域的・一体的に検討 	B⑬、B⑭	II-(2) II-(1)

社会系の専門部会の2026年度の取組内容(案)

2026年度以降のプログラム	実施内容(案)	2025年度までの重点プログラムとの対応	中間評価における取組方針(案)との対応
1. コウノトリ・トキ等の指標種や関東エコ・ネットに関する周知PR	<ul style="list-style-type: none"> • IPPM-OWS主催「コウノトリまつり」への関東エコ・ネットとしての参加(ブース出展) • 施設間連携し、毎年定例化できる「コウノトリ月間(仮称)」等のイベント開催の検討 • 情報発信ツール・方法の拡充 • 関東エコ・ネットの取組や拡がりの見える化の検討・試行 	A⑧	I-(3)
	<ul style="list-style-type: none"> • トキを視野に入れた周知PRツールの拡充と活用の推進 	A⑧	I-(3)、(4)
	<ul style="list-style-type: none"> • 野生生物との共生についての普及啓発の検討 	—	I-(3)
2. エコネットを題材とした地域学習の普及	<ul style="list-style-type: none"> • 交流学习の運営支援 • チラシと手引きの活用に係る検討 	C⑤、C⑩	—
	<ul style="list-style-type: none"> • 体系化した地域学習プログラムの冊子化 • 2024年度作成のパネルを使用した、地域学習プログラムの試行 • 冊子の活用方法の検討 	C⑤、C⑩	Ⅲ-(2)
	<ul style="list-style-type: none"> • (再掲)野生生物との共生についての普及啓発の検討 	—	Ⅲ-(2)
5. 活動の継続・安定化・強化を目的とした人材育成	<ul style="list-style-type: none"> • 関係主体への理解促進に係る取組の実施 • ポータルサイト等を活用した関係主体が実施する講座等の情報発信 	—	Ⅲ-(1)、Ⅲ-(5)
6. 活動の継続・安定化・強化を目的とした支援	<ul style="list-style-type: none"> • 過年度のご意見を踏まえた、新たな取組の検討 	—	Ⅲ-(3)、Ⅲ-(4)、Ⅲ-(6)
	<ul style="list-style-type: none"> • “関東エコ・ネット支援自動販売機”の仕組みや設計の検討・試行 • 自動販売機設置者の継続募集の方法の検討 	C⑩	Ⅲ-(1)、Ⅲ-(3)、Ⅲ-(6)

社会系の専門部会の2026年度の実施内容(案)

2026年度以降のプログラム	実施内容(案)	2025年度までの重点プログラムとの対応	中間評価における取組方針(案)との対応
1. コウノトリ・トキ等の指標種や関東エコ・ネットに関する周知PR 3. 野生生物や関連する風土を対象としたエコツーリズムの普及 4. 環境価値を重視したブランド農産物・商品の普及 6. 活動の継続・安定化・強化を目的とした支援	<ul style="list-style-type: none"> 周知PR、関連商品の販売促進、関係自治体・施設への来訪促進を目的とした、イオン店舗と連携したイベント開催 関係自治体・団体、エリア協議会だけでなく、トキに係る取組を実施している他団体との連携の検討 	C⑪、C⑯	Ⅲ-(1)、Ⅲ-(3)、Ⅲ-(6)

(2) 取組推進ガイドライン(案)について

プログラムの取組推進ガイドライン(案)

・中期目標(2030年)の達成に向けた取組みを関係機関等との連携・協働によって着実に進めるため、①～⑤を内容とする「**取組推進ガイドライン**」を検討している。2030年度に向けて、毎年度、各主体(国、県、市町、機関・団体等)にて④取組チェックシートを記載し事務局に提出。その報告をもとに、各専門部会にてプログラムの進捗管理を行う。

① 基本計画に基づく取組みの中間評価結果

2025年度に実施したの中間評価結果

② 2030年に向けた推進体制と取組プログラム

③ 2030年目標実現に向けたロードマップ
(再編したプログラムごと・主な主体別)

各プログラムの進行管理を行う拠りどころとして作成

自然系プログラムのロードマップ

プログラム	取組内容	2026	2027	2028	2029	2030
1 トキと共生する里地づくりに係る連携・情報共有	トキと共生する里地づくりに係る連携・情報共有の推進	●	●	●	●	●
2 コウトリの野生復帰に関する取組・連携・支援	コウトリの野生復帰に関する取組・連携・支援の推進	●	●	●	●	●
3 生態環境に関する調査、評価、取組進捗の把握	生態環境に関する調査、評価、取組進捗の把握の推進	●	●	●	●	●
4 河川域における生態環境創出・改善	河川域における生態環境創出・改善の推進	●	●	●	●	●
5 農地における生態環境創出・改善	農地における生態環境創出・改善の推進	●	●	●	●	●
6 水域連続性確保	水域連続性確保の推進	●	●	●	●	●
7 生態環境創出・改善のための維持管理	生態環境創出・改善のための維持管理の推進	●	●	●	●	●
8 樹林地・草地の育成・保全・管理	樹林地・草地の育成・保全・管理の推進	●	●	●	●	●

社会系プログラムのロードマップ

プログラム	取組内容	2026	2027	2028	2029	2030
1 コウトリトキ等の指標種や関与種に関する取組PR	コウトリトキ等の指標種や関与種に関する取組PRの推進	●	●	●	●	●
2 コウトリと共生した地域等の取組	コウトリと共生した地域等の取組の推進	●	●	●	●	●
3 野生動物や関連する鳥上を対象とした取組PRの普及	野生動物や関連する鳥上を対象とした取組PRの普及の推進	●	●	●	●	●
4 調査活動を重視したブランド画像の作成	調査活動を重視したブランド画像の作成の推進	●	●	●	●	●
5 活動の継続・安定化・強化を目的とした取組	活動の継続・安定化・強化を目的とした取組の推進	●	●	●	●	●
6 活動の継続・安定化・強化を目的とした取組	活動の継続・安定化・強化を目的とした取組の推進	●	●	●	●	●

⑤ 取組チェックシート
(取組推進の目安)

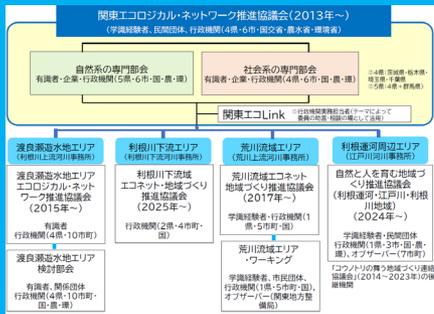
毎年9月頃を目処に、再編したプログラムの取組状況を、各主体(国、県・市町、機関・団体等)が記載し事務局に提出。事務局にて整理し、各専門部会で進捗確認

④ 2026-2030年度 実践メニューシート

再編したプログラムごとに主な主体別の具体的な実践内容(例)をシートとしてとりまとめる

<シート構成項目(案)>

- ・ 取組方針
- ・ 取組主体
- ・ 具体的な取組メニュー例と想定取組主体
- ・ 関連する取組進捗指標



No.	自然系の専門部会	A部会	B部会	C部会
1	トキと共生する里地づくりに係る連携・情報共有	●	●	●
2	コウトリの野生復帰に係る取組・連携・支援	●	●	●
3	生態環境に関する調査、評価、取組進捗の把握	●	●	●
4	河川域における生態環境創出・改善	●	●	●
5	農地における生態環境創出・改善	●	●	●
6	水域連続性確保	●	●	●
7	生態環境創出・改善のための維持管理	●	●	●
8	樹林地・草地の育成・保全・管理	●	●	●

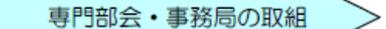
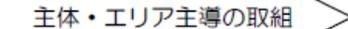
No.	社会系の専門部会	A部会	B部会	C部会
1	コウトリトキ等の指標種や関与種に関する取組PR	●	●	●
2	コウトリと共生した地域等の取組	●	●	●
3	野生動物や関連する鳥上を対象とした取組PRの普及	●	●	●
4	調査活動を重視したブランド画像の作成	●	●	●
5	活動の継続・安定化・強化を目的とした取組	●	●	●
6	活動の継続・安定化・強化を目的とした取組	●	●	●

(例)

取組方針	国	県	市町	教育・福祉関係	企業等	機関・団体
トキと共生する里地づくりに係る連携・情報共有	●	●	●	○	-	○
取組主体	●	●	●	○	-	○
具体的な取組メニュー例と想定取組主体	自然1-1 関東エコ・ネットや会議、関東自治体フォーラム等、各種会議の場やメンバーのメーリングリストを通じたトキの野生復帰やトキの生息環境づくり、トキをシンボルとした地域づくり等に係る取組情報の共有を進める 自然1-2 トキの野生復帰の実施状況や太平洋側等への飛来状況に係る情報(全国的な動向含む)の収集・共有を進める 自然1-3 「トキと共生する里地づくり」に係る全国および関東自治体フォーラムの取組に係る情報共有を関係機関間で進める 自然1-4 トキの営巣環境・条件に関する情報収集・共有、営巣林・営巣木保全・育成等の検討・取組を進める 自然1-5 野外コウトリ対応に係る実績・成果のトキへの応用に向けた検討を進める 自然1-6 その他					
関連する取組進捗指標	① コウトリトキに係る関係機関間の情報共有の実施状況					

	プログラム	取組成果イメージ	2026	2027	2028	2029	2030 (中期目標年)
1	トキと共生する里地づくりに係る連携・情報共有	トキに係る情報共有、コウノトリ実績のトキへの応用の検討	トキに係る情報の収集・共有、コウノトリ実績のトキへの応用検討		各主体・機関・団体等におけるトキに係る情報の把握・共有		
2	コウノトリの飼育・繁殖・保全に係る取組・連携・支援	コウノトリの持続可能な関東地域個体群形成	関東版資料集の普及、IPPM-OWS・自治体フォーラム等との連携推進		共通課題に係る情報共有・検討・支援の推進		
			各主体・エリア・機関等による取組の推進、情報の把握・提供 野外コウノトリ対応を行う主体・地域への支援・連携の推進				
3	生息環境に関する調査、評価、取組適地選定	生息環境の創出・改善に関する事前・事後調査の実施、生息のポテンシャル評価、取組の適地選定	取組モデル・実施イメージ提示	取組実現に向けた支援 (各主体のニーズにより適宜実施)			
			事前・事後調査、取組野実施適性の評価				
			取組適地の検討	取組適地の検討 (新規事業にあわせて適宜実施)			
4	河川域における生息環境創出・改善	モデル作成 ワンド、たまり、池等の創出・改善	取組モデル・整備イメージ提示	取組実現に向けた支援 (各主体のニーズにより適宜実施)			
			現計画に基づく生息環境創出・改善等を適宜実施		生息環境創出・改善		
5	農地における生息環境創出・改善	モデル作成 江、ビオトープ水田等の創出・改善、冬水田んぼ・夏水田んぼ等の水管理 有機農業等の実施	取組モデル・整備イメージ提示	取組実現に向けた支援 (各主体のニーズにより適宜実施)			
			現計画に基づく生息環境創出・改善等を適宜実施		生息環境創出・改善		
			生物多様性に富んだ農法実施				
6	水域連続性確保	河川・水路・水田等における魚道整備等による水域の連続性確保	取組モデル・整備イメージ提示	取組実現に向けた支援 (各主体のニーズにより適宜実施)			
			現計画に基づく水域連続性確保を適宜実施		より効果的な水域連続性確保推進		
7	生息環境創出・改善のための維持管理	生息環境を良好な状態に維持するための体制構築と実施	取組モデル・実施イメージ提示	取組実現に向けた支援 (各主体のニーズにより適宜実施)			
			現在の地域連携体制による維持管理を適宜実施		地域連携体制の構築と維持管理の実施		
8	樹林地・草地の育成・保全・管理	湿地周辺における採餌・繁殖のための樹林地・草地の維持・形成	取組モデル・実施イメージ提示	取組実現に向けた支援 (各主体のニーズにより適宜実施)			
			現在の樹林地・草地に対する育成・保全・管理の取組を適宜実施		より効果的な樹林地・草地の育成・保全・管理の推進		

取組成果等の検証・評価

凡例  専門部会・事務局の取組  主体・エリア主導の取組

- 再編した8つの自然系プログラムについて、関係主体(国、県、市町、教育・福祉関係、企業等、機関団体)が役割分担をしながら取組を推進することを想定している。

自然系プログラムの取組主体

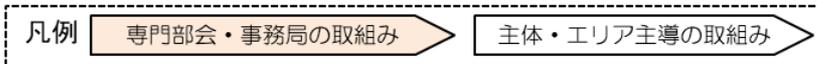
No.	2026年度以降のプログラム(再編案)	役割分担					
		国	県	市町	教育・福祉関係	企業等	機関・団体
1	トキと共生する里地づくりに係る連携・情報共有	●	●	●	○	—	○
2	コウノトリの飼育・繁殖・保全に係る取組み・連携・支援	●	●	●	○	○	●
3	生息環境に関する情報共有、調査、評価、取組適地選定	●	●	●	●	○	●
4	河川域における生息環境創出・改善	●	●	●	●	○	●
5	農地における生息環境創出・改善	●	●	●	●	○	●
6	水域連続性確保	●	●	●	○	—	●
7	生息環境創出・改善のための維持管理	●	●	●	●	●	●
8	樹林地・草地の育成・保全・管理	○	○	●	○	○	●

【凡例】 ●:現場に直接的に関わる主体、 ○:支援的な取組がメイン

・ 2026年度から以下に示したロードマップの通り、実施を予定する。

プログラム	取組成果イメージ	2026	2027	2028	2029	2030 (中期目標年)	
1	コウノトリ・トキ等の指標種や関東エコ・ネットに関する周知PR	関東エコ・ネットポータルサイト、ツール共有サイトの拡充運用の検討・推進 「おしえてコウノトリBook」改訂 関東エコ・ネットの取組や拡がりの見える化の検討・試行			活用 の推進		
				取組 の推進			
				イベント・拠点施設・各種媒体を通じた情報発信、 関東エコ・ネットとのリンク・連携による周知PRの推進			
2	エコネットを題材とした地域学習の普及			交流学習のマッチング支援、必要に応じた運営支援体制の改善			
				交流学習の窓口・運営支援			
		地域学習プログラム の試行、冊子化		地域学習プログラムの普及、ツールの拡充			
				ツールを活用した地域学習プログラムの実施			
				おしえてコウノトリBOOKの配布			
3	野生生物や関連する歴史・風土を対象としたエコツーリズムの普及			ポータルサイト等を活用した関係主体が実施するエコツーリズムの情報発信			
				自然系プログラム「農地における生息環境創出・改善」や 「生息環境創出・改善のための維持管理」のコンテンツ化の検討、イベント等の実施			
4	環境価値を重視したブランド農産物・商品の普及			販売促進機会・販売機会の創出			
				自然系プログラム「農地における生息環境創出・改善」による商品化の実施支援、 商品の開発・生産・販売の実施支援、地域還元方策の検討・実施			
5	活動の継続・安定化・強化を目的とした人材育成			関係主体への理解促進に係る取組の実施			
				ポータルサイト等を活用した関係主体が実施する講座等の情報発信			
				人材育成を目的とした市民向け講座等の実施			
6	活動の継続・安定化・強化を目的とした支援			企業のCSR活動や資金援助等の提案・受入れ・マッチング			
				関東エコ・ネットの取組や拡がりの見える化の検討・試行			
				助成金制度等の整備・運用、企業のCSR活動や資金援助等の提案・受入れ・マッチング、都市住民等も参加できる取組の検討・実施、活動参加へのポイント制度の実施			

取組成果等の検証・評価



- 再編した6つの自然系プログラムについて、関係主体(国、県、市町、教育・福祉関係、企業等、機関団体)が役割分担をしながら取組を推進することを想定している。

社会系プログラムの取組主体

No.	2026年度以降のプログラム(再編案)	役割分担					
		国	県	市町	教育・福祉関係	企業等	機関・団体
1	コウノトリ・トキ等の指標種や関東エコ・ネットに関する周知PR	●	●	●	●	●	●
2	エコネットを題材とした地域学習の普及	●	●	●	●	●	●
3	野生生物や関連する風土を対象としたエコツーリズムの普及	●	●	●	○	●	●
4	環境価値を重視したブランド農産物・商品の普及	●	●	●	○	●	●
5	活動の継続・安定化・強化を目的とした人材育成	●	●	●	○	○	○
6	活動の継続・安定化・強化を目的とした支援	●	●	●	●	●	●

【凡例】 ●:現場に直接的に関わる主体、 ○:支援的な取組がメイン